

天草陶石使った皿 苓北中生が絵付け

給食の食器に

苓北町の苓北中3年生50人が4日、同校で地元特産の天草陶石で作られた磁器の皿を使って絵付けを体験した。町の特産であるヒオウギガイや天領アジなどを描き、3学期に3年生の給食用食器として使う。その後は後輩に引き継がれる。

町教育委員会が10年以上前から開き、同校の恒例行事となっている。事前に絵柄を考えた生徒



磁器の皿に大きなクジラの絵を描く
苓北中の生徒＝4日、苓北町

たちは、素焼きの皿に赤や黄など4色の特殊な絵の具で海産物、花、野菜などを描いた。

青い小さな魚が上品に緑を彩る皿や、迫力のある力二を描いた皿など、独創的な作品の数々が完成。冬が旬のヒオウギガイを題材にした平井翼さんは「貝殻のしま模様を細かく、立体的になるように描いた」と工夫を語った。

皿はうわぐすりをかけて、1300度の高温で約18時間焼いた後、学校給食用の食器として使用される。

（石井颯悟）